

## インドネシア語の児童書選書リストにかかわる報告書

2012 年 2 月

作成者 三平 シルヴィア

### はじめに

インドネシア語の児童書リストの作成は、その本の収集、保管、出版、販売等を行っている場所と切り離せません。そうした場所とは、児童書を扱っている図書館、収集家、出版社、書店ということになります。

インドネシア語の児童書は日本ではあまり利用したり、購入することはできません。インドネシアでも同様な状況なのでこれは無理もありません。私は、今後、国際子ども図書館の蔵書に加えたほうが良いと思われる本のリストを作成しましたが、まずその前に国際子ども図書館のインドネシア語児童書の所蔵状況を調べました。所蔵状況をお知らせすることは利用者の方々にも役立つと思いますので、まずそれについて少し述べます。その後、国際子ども図書館に収蔵されていないインドネシア児童書の出版状況について紹介いたしたいと思います。

### 1. 国際子ども図書館におけるインドネシア語児童書の蔵書

まず、特徴的なのは日本語からの翻訳書が多いことです。日本関係のものを集めるという子ども図書館の収集方針に拠ることと、日本語出版権を持っている日本の出版社からの寄贈と聞いております。そこで蔵書を 1) 日本語からの翻訳児童書、2) インドネシア人による児童書に分けて紹介したいと思います。これ以外に英語からの翻訳児童書、日本語からの翻訳漫画も所蔵しているようですが、これは国際子ども図書館の収集方針にはずれているとのことですし、またそれほど多くはないので省略します。

#### 1.1 日本語からの翻訳児童書

日本の翻訳書を主に出版しているのはインドネシアのメディア界で大きな位置を占めている Gramedia Group のなかの一社である Elex Media Komputindo 社です。日本語の翻訳書はほとんどこの出版社から出されています。藤子不二雄「ドラえもんふしぎ探検」シリーズ、清野幸子「ノンタン」シリーズ、間所ひさこ「ころわん」シリーズ、角野栄子「おぼけ」シリーズ、平田昭吾の「日本昔話」シリーズなどです。生物学関係では、

七尾純『Serangga dan Bunga(花とこん虫)』,小田英智『Berudu (おたまじゃくし)』、長谷川洋『Jangkrik (こおろぎ)』、大谷剛『Lebah Madu (ミツバチ)』、桜井淳史『Ikan Punggung Berduri (トゲウオ)』、遠藤公男『Burung Kuau (キジのくらし)』、富士元寿彦『Rakun (たぬき)』、草野慎二『Katak Leopard (トノサマガエル)』、佐藤正彦『Serangga dan Hewan Kecil (こん虫とみぢかな生き物)』、坂本邦一『Tubuh Kita (からだのしくみ)』、猿渡厚史『Struktur dan Pertumbuhan Tanaman (植物のつくりや育ち方)』などがあります。また他のものとしては、自然について書かれた磯野晋『Sungai dan Laut (川や海をさぐる)』、太田真『Air dan Udara (水や空気の不思議)』、発明についてかかれた小西聖一『Penemuan Telepon (でんわのはつめい)』、ゆきのゆみこ『Penemuan Televisi(テレビのはつめい)』があります。また絵入りの学習図書として、堀浩『Rahasia Gajah(ぞうのなぜなぜ?)』、大隈清治『Rahasia Ikan Paus (くじらのなぜなぜ?)』などの「しぜんなぜなぜえほん」シリーズもあります。

## 1.2 インドネシア人による児童書

インドネシアの児童書を次の三つにわけて紹介いたします。①民話からの採話、②創作児童書、③教育関係児童書です。

### 1.2.1 民話からの採話

ベイベー(Baby)とマッド・ユスフ(Mad Yusuf)によって採話された次の四冊が所蔵されています。すなわち、『Cindelararas (チンデララス; 男性の名)、東ジャワ民話』、『Lutung Kasarung (ルトウン・カサルン; 黒毛猿の名)、西ジャワ民話』、『Jaka Tarub (ジャカ・タルブ; 若者の名)、東ジャワ民話』、『Pangeran Katak (パンゲラン・カタク; 蛙王子)、バリ民話』です。他の作家によって採話されたものもあります。エディ・ハルヨノ (Edi Haryono)『Sangkuriang (サンクリアン; 男性の名)、西ジャワ民話』、スヤディ・クルナイン・スハルディマン(Suyadi Kurnain Suhardiman)『Joko Kendil (ジョコ・クンディル; 釜頭の若者)、東ジャワ民話』、アデ・スキルノ (Ade Soekirno)『Damarwulan (ダマルウラン; 男性の名)、東ジャワ民話』、ノラ・ハスヤティ (Nora Hasyati)『Anglingdharma (アンリンダルマ; 男性の名)、ジャワ民話』、エカ・サンタナ (Eka Santana)『Nyi Pucuk Kalumpang (杵先娘)、西ジャワ民話』、ハルナエニ・ハムダン(Harnaeni Hamdan)『Nasib Dewi Retno (女神レトゥノの運命)、マドゥラ民話』、M.インドラ・プトウラ (M. Indra Putra)

『Gadis Ranti (少女ランティ)、西スマトラ民話』などです。

その他に民話集もあります。ナイム・エメル・プラハナ(Naim Emel Prahana)によるランブン民話集、シャハザマン (Syahzaman) による西カリマンタン民話集、ラ・オデ・シドゥ(La Ode Sidu) による南スラウェシ民話集、ジェームズ・ダナンジャヤ(James Danandjaja) によるバリ民話集、B.M.シャムスディン (B.M.Syamsuddin) によるリアウ民話集、Z.パンガドゥアン・ルビス(Z.Pangaduan Lubis) によるバタック・カロ民話集、L.K.アラ(L.K. Ara) によるアチェ民話集、バクディ・スマント (Bakdi Soemanto) によるジョクジャカルタ民話集といったものです。

また、ムルティ・ブナンタ (Murti Bunanta) は「児童書愛好会 (Kelompok Pecinta Bacaan Anak)」を主催しております。この会は、子どもたちへの読み聞かせをする傍ら、児童向け民話の採話出版を行うものです。刊行書には、『Putri Kemang(クマン姫)、ベンクル民話』、『Putri Bunga Melur (ムルール花の姫)、北スマトラ民話』、『Si Kelingking (小指ちゃん)、ジャムビ民話』、『Suwidak Loro (六十二本の髪少女)、ジャワ民話』などがあります。

### 1.2.2 創作児童書

1970年代の著名な作家の作品が所蔵されています。スヤディ・クルナイン・スハルディマン(Suyadi Kurnain Suhardiman)『Made dan 4 Teman (マデと四人の友達)』、スヨノ (Suyono)『Pelukis Cilik (小さな画家)』、ウセプ・ロムリ(Usep Romli)『Pahlawan-pahlawan Hutan Jati (チークの森の英雄達)』、スラメット・スセノ (Slamet Soeseno)『Sehari Bersama Simin (シミンと過ごした日)』、ニラクスマ (Nilakusuma)『Taume Anak Mentawai (タウメ、ムンタワイの子)』、カマジャヤ (Kamajaya)『Empat Cerita Indah (四つの美しいお話)』、その他に1990年代に発行されたヨウスダ夫人 (Ibu Yousda)『Syair Hewan (動物達の詩)』(Ibuの原義は母ですが、夫人の意にも用いられ、ある程度の年齢の女性は、既婚・未婚を問わず、自分の名の前にIbuを冠することが少なくありません)、A.W.リリット (A.W. Ririt)『Berkat Dua Ekor Anak Ayam (幸福な二羽のひよこ)』、ティティ・スルティアティ夫人(Ibu Titi Surtiati)『Bermain Layang-layang (凧上げ遊び)』、ベプタ(Beptha)『Ladang Paman (おじさんの畑)』、チュニック (Cunik)『Mawar Merah, Mawar Putih (赤いバラ、白いバラ)』があります。

### 1.2.3 教育関係児童書

生物学関係の本として、M.W. エスティ夫人 (M.W. Ibu Esthi) 『Belalang Kaki Panjang (長い脚のバッタ)』、『Kehidupan Katak (蛙の生活)』、オピニ(Opini) 『Ulat Menjadi Kupu-kupu (芋虫が蝶になる)』、A. レシンタ(A. Resintha) 『Hewan yang Dapat Terbang (空飛ぶ動物)』、H. ウィナルノ (H. Winarno) 『Kelahiranku (私の誕生)』、自然関係の本として、チュニック(Cunik) 『Air Sumber Kehidupan (水は生き物の源)』、オピニ(Opini) 『Musim Kemarau (乾季)』、『Musim Hujan (雨季)』、『Kebersihan Lingkungan (環境衛生)』、その他の分野のものとしてケオ(Keo) 『Palang Merahku (私の赤十字)』、M.W. エスティ夫人(M.W. Ibu Esthi) 『Merah Putih Merah Putih (赤白赤白；赤白はインドネシア国旗を指す)』、『Mengapa Upacara Bendera Ayah? (お父さん、どうして儀式には旗を揚げるの?)』、『Kerukunan Beragama (いろいろな宗教の調和)』です。歴史的英雄を書いたものとしてはデディ・アルマン(Deddy Armand) 『Sisingamangaraja XII (シシンガマンガラジャ 12 世)』があります。

## 2. 国際子ども図書館に収蔵されていないインドネシア語児童書

### 2.1 作成したリスト

国際子ども図書館の蔵書を点検したあと、私は自分の蔵書のなかから国際子ども図書館にあったほうがいいと思われる本を別添のリストに入れました(リスト番号 1 から 32 まで、93 から 157 まで、および 161 がそれです)。そのうちのいくつかは他の本のブックカバーに書かれた近刊予告にあったものです。それからインターネットで本の情報を収集しました(リスト番号 33 から 92 まで、158 から 160 まで、162 から 200 まで)。そのなかに民話に基づく小説 (リスト番号 33 から 92 まで)と民話集(リスト番号 158 から 160 まで)がありました。

また、インターネットで検索しますと、外国の本からの翻訳書が多数見つかりました。とりわけ、日本語からのものが多いのですが、インドネシアでも日本のコミックの人気が高いためでしょう。私はインドネシア人作者による創作に重点を置いて検索を試みましたが、その数は 38 冊(リスト番号 163 から 200 まで)と、あまり多くはありませんでした。

ところで、インドネシアでも、成人や子どもを対象とした作品の創作コンクールが行われています。このようなコンクールは作者を育成する上で大切なことでしょう。このようなコンクールから生まれた作品は 4 作が見

つかりました(リスト番号 161、162、186、187)。また、創作ではありませんが、2002年にパプアの Cycloops 環境教育財団(YPLHC, Yayasan Pendidikan Lingkungan Hidup Cycloops)が出版社 Grasindo と共催して、全パプアの中・高校の教師・生徒の参加を得て、パプアの民話作文コンクールを実施しました。その結果、リスト番号 161 が教師の、リスト番号 162 が生徒の最優秀賞をそれぞれ受賞しました。リストにある通り、前者には 19 話が、後者には 16 話が収められています。ただ、残念なことに、いずれの書にも執筆者名が記されていません。

一方、リスト番号 186 『Berbagi itu Sulit Tetapi Menyenangkan (分けてあげるのは難しいけど楽しい)』は、2008年に出版社 Erlangga が実施した作文コンクールの優秀作品集です。これについても、残念なことに、執筆者の名前は不明で、かつ、執筆者が一人であるか、複数であるかも不明です。同様に、リスト番号 187 『Aku, Daun dan Sahabatku (私、葉っぱと友達)』も、2010年に同社が実施した“Children Helping Children 2010”コンクールの優秀作品で、これについても執筆者達の名前は明らかではありません。

## 2.2 インドネシアの児童書リストを作成するにあたっての困難

- (1)多くのインドネシアの出版社はインターネット上のサイトを持っていません。これについては書店のサイトに助けられました。
- (2)翻訳児童書、特に日本語からのもの、また売れ行きのいい英語の本から模倣改作されたものがたくさんインターネット上に載せられています。インドネシア独自の児童書は非常に少数です。さらに、わずかですが、インドネシア人作家によって書かれたインドネシア語の本でも、題名だけが英語のものがあります。これは出版社の販売戦略によってこうなっているのでしょう。一例として、サビラ・アディンタ『Journey in Japan (日本の旅)』があります(リスト番号 197)。
- (3)本を紹介するサイトの多くのものが本の表紙の写真を挙げているだけで要約や批評などは載せていませんので、選書が非常に困難でした。
- (4)ISBN や出版年の記載がない本が多く出版されています。そうした時には誰でもアクセス可能な図書館 Open Library のサイトが助けになりました。

## 2.3 リスト作成に役にたったサイト

- (1)出版社のサイトは
  - a. Erlangga (エルランガ出版)

[www.erlangga.co.id](http://www.erlangga.co.id) [last access:2012.3.27]

b. P.T. Wahyu Media Publisher (P.T.ワフユ・メディア出版):

[www.wahyumedia.com](http://www.wahyumedia.com) [last access:2012.3.18]

c. Indonesiatera Publisher (インドネシアテラ出版)

[www.indonesiatera](http://www.indonesiatera) [last access:2012.2.9]

d. Grasindo Publisher (グラシンド出版)

[www.grasindo.co.id](http://www.grasindo.co.id) [last access:2012.3.18]

e. Pustaka Setia Publisher (プスタカ・スティア出版):

[www.Pustaka-setia.webs.com](http://www.Pustaka-setia.webs.com) [last access:2012.2.22]

(2)書店のサイトは

a. Gapura Toko Buku Online

[www.gapuramitrasejati.com](http://www.gapuramitrasejati.com) [last access:2012.2.12]

b. Buku Kita.Com

[www.bukukita.com](http://www.bukukita.com) [last access:2012.2.12]

c. Amartapura

[www.amartapura.com](http://www.amartapura.com) [last access:2012.2.12]

(3)Open Library のサイトは

[www.openlibrary.org](http://www.openlibrary.org) [last access:2012.3.27]

(青少年向けのインドネシアの書籍がみられます)